

Leverages

【イベントレポート】レバレッジズ、アジア最大級のカンファレンス「Scala Matsuri 2020」に協賛

2020年10月17～18日、アジア最大級のScalaカンファレンス「Scala Matsuri 2020」が開催され、レバレッジズは大名スポンサーとして協賛いたしました。8度目の開催となる今回のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の影響から初のウェビナー形式で行われました。



■1日目-エキスパートから初心者まで、幅広い層に向けたセッションを開催

1日目はカンファレンス形式で、モデル駆動設計やマルチステージプログラミング、初心者向けScala入門など、19のテーマでセッションが行われました。

Scala開発者のMartin Odersky氏が所属するスイス連邦工科大学 (EPFL) の研究室から、Georg Schmid氏とOlivier Blanvillain氏が登壇。2020年中に公開予定のScala 3に導入される機能“match types”や、型レベルの関数について解説しました。

■2日目-参加者とともにプログラムを作り上げるアンカンファレンス

2日目は、GitHubで集めたアイデアから参加者が話したいテーマを選び、セッションを行うアンカンファレンス形式で進行しました。

レバレッジズからは、テックリードの竹下 義晃(たけした よしてる)が登壇。「Scalaの転職市場動向 ~Scala使うと年収上がるって本当?」というテーマで、転職市場におけるScalaの需要やScalaエンジニアの年収などについて、レバテックの人材データベースをもとに発表しました。

本セミナーの詳細なレポートは、レバテックキャリアWebページ上での公開を予定しています。



ウェビナーの登録者は2日間で約450人に上り、アジアや欧米など海外からも多数のScalaエンジニアが登壇・視聴しました。発表内容は日英同時通訳されたほか、参加者が自由に交流できるDiscord上のチャットには翻訳botを導入。国籍の垣根を超えた交流も活発に行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。

Leverages Group

社会の課題を解決し関係者全員の幸福を追求し続けることをミッションに、インターネットメディア・人材・システムエンジニアリング・M&A・不動産の領域で国や業界をまたいだ問題解決を行っています。2005年に創業以来、黒字経営を継続し14年期目の2019年度は年商449億を突破しました。各分野のスペシャリストが集うオールインハウスの組織構成と、業界を絞らないポートフォリオ経営で、時代を代表するグローバル企業を目指します。

本社所在地：〒150-6190 東京都渋谷区渋谷2丁目24番12号渋谷スクランブルスクエア24F/25F
代表取締役：岩槻知秀
資本金：5,000万円
設立：2005年4月
事業内容：自社メディア事業、人材関連事業、システムエンジニアリング事業、M&Aコンサルティング事業、ASP/SaaS/クラウド関連事業 <http://leverages.jp>

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ
レバレッジズ広報部
TEL：03-5774-2900 MAIL：pr@leverages.jp